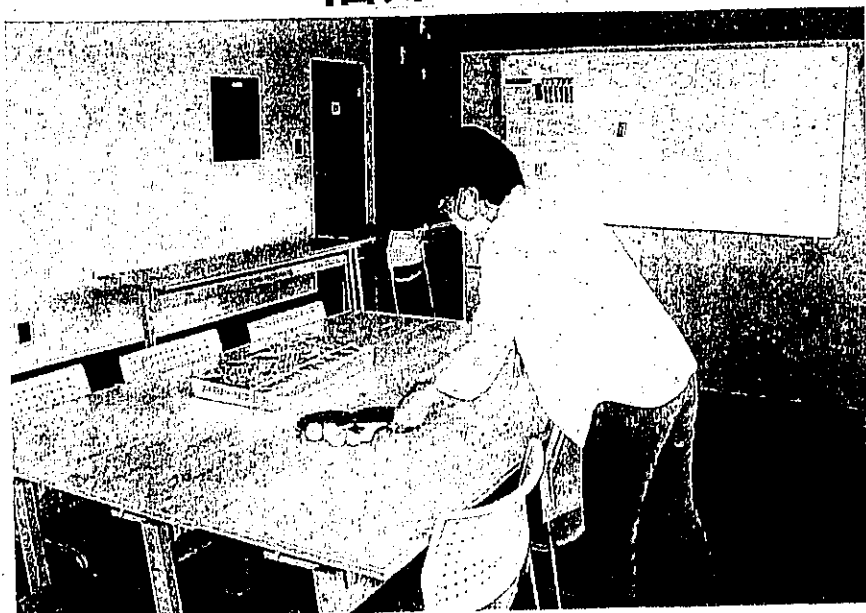


福知山市

駅前拠点整備

子の悩みにも対応



不登校の児童、生徒の居場所づくりを目指してＪＲ福知山駅前に整備されたＳＩＲＯらぼ(福知山市末広町)

市教育委員会によると、市立小中学校の不登校の児童生徒は2021年度、過去最多174人に上った。特に中学では、19年度(87人)以降増えており、21年度は1・4倍の122人に達した。

態に合わせて学びの場内を受け入れる「けやを提供する」「多様なき広場」とともに、「不登校の段階に応じた体」を22年度末に策定制を整えた。

市役所の複数部署でふくちやま1階にある同市内記のハピネス子どもに關わる連携を図り、自立まで子育て総合相談窓口の歩みをサポートすは、「小学入学後の相談先が分からない」と

に、家や学校以外の居場所を提供する「SIRORA」は同市末広町に5月に開設した。教員免許を持つ職員が悩みを抱えた子どもに、一対一で向き合い、勉強や遊び、料理を通じてコミュニケーションを図る。学校で別室指導する「アナザークラス」、少人数を同市岡ノの勤労青少年ホーム内で受け入れる「けやき広場」とともに、不登校の段階に応じた体制を整えた。

同市内記のハピネスふくちやまー階にある子育て総合相談窓口は、「小学入学後の相談先が分からない」と

悩み相談だけでなく、不登校や、家事や介護を日常的に担う「ヤングケアラー」など就学後の問題にも対処できるよう、保健師や社会福祉士の資格を持つ職員を34人配置した。

アクションプラン策定に携わった京都教育大教職キャリア高度化センターの中垣ますみ教授は「子ども一人一人に合った学びのスタイルがあることを、多くの人が認めることが重要。地域として全ての子ども居場所づくりに取り組んでほしい」と話している。

湯沢宏志

子に合った学びスタイルを